

新井胃腸科診療所 だより

診療所の基本方針

- 1 私たちは、患者さんが納得のいく医療サービスを提供するため、努力します。
- 2 私たちは、全力のチームプレイで、正確な医療業務を遂行します。
- 3 私たちは、適法・適正な保険診療の実践を、厳守します。

百歳人生といわれて

新井胃腸科診療所 広報誌

令和元年夏号

発行者 岸川一郎

前橋市昭和町1-16-10

TEL 027-231-2083

新井胃腸科診療所ホームページ

<http://arai-ichouka.or.jp>



セン
ニ
チ
コ
ウ

事務部長 赤司 文雄

1. 長寿の現状

日本の平均寿命の推移は、2017年現在で男性が81.09歳、女性が87.26歳で、厚労省が把握する世界50ヶ国・地域で較べると、女性は3年連続2位、男性は世界3位で、今後も平均寿命は延伸すると見込まれています。2060年には、男性が84.19歳、女性が90.93歳となり、女性の平均寿命が90歳をこえることがみこまれています。

先進国の高齢化率(総人口に対して65歳以上の人口が占める割合)を比較してみると我が国は1980年代までは下位、90年代にはほぼ中位でしたが、2006年には最も高い水準となり、世界のどの国もこれまで経験したことの無い高齢社会を迎えています。また、高齢化の速度ですが、7%をこえてからその倍の14%に達するまでの所用年数は、フランスが115年、スウェーデンが85年、比較的短いドイツが40年、イギリスが47年であるのに対して、我が国は1970年に7%を越え、その24年後の1994年に14%に達しています。世界に例をみないスピードで高齢化がすすんでいます。

2. どうして長寿大国に？

色々と長寿の要因は論じられていますが、私は、医療技術の進歩と医療保険制度が整備され機能していることが、最大の要因ではないかと考えています。当診療所を含め地域に密着した医療施設が数多く存在し、受けたいときに受けたい医療を選択できます。また、年1回の定期健康診断を受ける体制が整っており、異常の早期発見・早期治療が可能となり、病気を重症化することなく治療する、あるいは病気そのものを未然に防ぐことができます。さらに、一部自費にはなりますが、人間ドックやがん検診など、より詳細な検査を含む健康診断を受けることができます。こうした医療制度の充実が平均寿命を底上げし結果として世界トップクラスの長寿国となっているのではないかと考えます。

3. 百歳人生とは

上述したように、年々人は、長生きする環境に身を置いていることになります。一体どこまで生きることになるのでしょうか。

最近、百歳人生説というものをマスコミの報道で知りました。百歳という長い人生を生きていく可能性が高くなっているというのです。国の内閣府までも「人生100年時代構想」なるプロジェクトを立ち上げました。

さて、人生100歳といわれても、どうすればいいのだろうか。こんな長い人生をどう生きていけばいいのでしょうか。私は、こんなに長く生きるとは思ってもみませんでした。私は、もっとも長く生きたいとは、思っていました。

4. 百歳人生を生きる

余談ですが、戦国時代の武将、織田信長が、桶狭間の戦いの前に舞ったという「敦盛」に「人間五十年、化天のうちを比ぶれば、夢幻の如くなり 一度生を享け滅せぬものあるべきか」とあり、「人の世の50年の歳月は下天の一日にしかあたらない、夢幻のようなものだ」という意味だそうです。但し、現代において、「(当時の平均寿命から)人の一生は五十年に過ぎない」という意味としばしば誤って説明されますが、この一節は天界を比較対象とすることで人の世の時の流れの儂さについて説明しているだけで、人の一生が五十年と言っているわけではないそうです。

人生百歳を「夢幻の如くなり」では虚しいけれど、「人の世の時の流れ」は儂いものかもしれません。望むと望まざるとに関わらず、私たちが人生百歳の幕開けの時代に足を踏み入れていることは、事実のようです。ひょっとすると人生百歳を生きるということは、並大抵のことではないかもしれません、百歳まであと40年、あと30年、あと20年かもしれませんが、それは一日の積み重ねでしかありません。結局、一日をどう生きるかにかかっているのかもしれません。生き方は百人百様ですが。

私は、織田信長は、「人生百歳」を生きると決めて、桶狭間に出陣したのではないかと思うのですが、日々を「自分で考え(決めて)、行動する」ことで、難儀な「人生百歳」にチャレンジしていきたい思います。

以上